

---

# 俺の目指す人

クロウサギ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

俺の目指す人

### 【Nコード】

N3867M

### 【作者名】

クロウサギ

### 【あらすじ】

鋼の錬金術師。エドとウィンリーの1人目の子供が生まれたときのお話です。

(前書き)

アニメでも、漫画でも、エドとウィンリイの間に、子供ができてましたよね。

その1人目の子供が生まれたとき、エドは何を思ったのだろう。

そう考えて、この作品はうまれました。

あきらかなる改造です。

子供の名前、ダサイですが、ネーミングセンスゼロなもので…。

でも、ホークアイよりかは、センスあると思います。

研究がひとまず落ち着き、ウィンリイと結婚をした。

「ちよつとエド…、話があるんだけど…?」

そんなある日、俺とアルが家へ帰ってくると、深刻そうにウィンリイが俺を呼んだ。

「…なんだ?話って、何かあったのか?」

「うん。…あのね、子供が…出来たみたい。」

「…ども…?」

子供って、アノ子供だよな。

「お、俺たちの???」

「馬鹿ね。エド以外の誰が父親だって言うのよ。」

「…そつか、そつか、俺達の!」

俺達の子供。

俺は嬉しくなつて、涙がでそうになった。

「絶対、産んでくれよ、俺達の子供!」

「あはは。あたりまえでしょつ。」

バシツといつものように背中を叩かれる。

それさえも嬉しい(別にドMとかじゃねえぞ?)

それから月日が経ち、ついに子供が生まれた。

「んぎやつ、んぎやつ。」

金髪青目の元気な男の子。

「…俺の…子。」

「…ん、抱っこしてあげて、エド。」

そう言つてウィンリイは、疲れきった腕で、赤ん坊を俺に差し出した。

抱っこすると、思っていた以上に思い。

…命の重み。

「よし、今日からお前は、ジュランだ！」

「ちよつと、やだエド！変な名前つけないでよ！」

「な、なに？変か？」

「変よ！エドはセンスないんだからッ。」

「かーっ。だったらウインリイ、決めてくれ。」

ウインリイが少し微笑む。

「ホエリーンなんて、どう？」

「なんだ、ださいな。」

「ホーラは？」

「んー。ましかな。っーか、なんでホにこだわるんだ？」

「…エドのお父さんみたいな、素敵な人になってほしいから。」

「…くそ親父のホかよ。」

「ダメ？」

ダメなわけがない。

確かにクソ親父は、母さんを待たせた。

でも結局、誰よりも俺達を心配してくれた。

あんな良い親父が居るわけがない。

「…あんなうぜえ奴にならねーように、教育しねえとな！」

「そうだね。」

数日後、ウインリイと一緒に、ホーラを抱いて、クソ親父と母さんの墓へ行く。

もちろんホーラには厚着をさせて。リゼンブールの夜は冷えるからな。

「おい、クソ親父、母さん。俺と…ウインリイの子供、ホーラだ。」

「まだクソなんてつけてるの？」

「いいだろ？」

「ほえっ…んぎゃっ、んぎゃ。」

「おお？…泣くな、泣くな。」

泣き出すホーラを必死に俺はなだめようとする。

「あー。もう、かして。」

ウィンリイは俺の腕からホーラを受け取り、なだめる。  
すると、ホーラは急に静かになった。

「…俺は、コイツの良い父親になれるのかな。」

ホーエンハイムは、良い父親だった。

でも俺は、あいつみたいになれるのかな。

「大丈夫よ、エド。」

「でもよ、」

「だって、エドが出来ないことは、私がすれば良いんでしょう？ 苦手な事、やってあげるから、私の苦手な分野はやってよね。これ、等価交換よ？」

等価交換…。

できるかな、俺に。

「大丈夫、出来るさ。」

「エド、あなたはこの人の息子でしょう？」

幽霊なんて、非科学的なもの、信じてはいないけど、クソ親父と母さんの声が聞こえたような気がした。

「…そうだよな。俺は、クソ親父の息子だ。」

ウィンリイと俺、2人でなら、なんとかなるはずだ。

父親なんか、すぐ追い越す程立派な親父になってみせる。

俺は誇るべき、ヴァン・ホーエンハイムの息子なんだから。

空で、親父が笑った気がした。

(後書き)

読んでいただき、ありがとうございました。

ぐんぐんですが、がんばりました。

感想・評価くださると、うれしいっす。

ホント、読んでくれてありがとうございました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3867m/>

---

俺の目指す人

2010年10月8日23時55分発行